

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90240	アートマネジメント研究	2単位 通年	1-2	演習	谷本 裕 神谷 武史

■テーマ 「自分の舞台」を企画・制作する。

### ■授業の概要

アートマネジメントは、アーティストと社会とを多様な方法で結びつけ、アートの持つ多様な価値を人々と分かち合い、その豊かさによってアーティストと社会の双方を触発するための、諸活動の総称である。それは大きくは、具体的な事業の企画・立案と、当該の企画・立案を十全に具現化・現実化していく制作から成る。とりわけ事業経営上、その成否を決する活動として広報の営みは重要なものである。こうしたアートマネジメントの知識と方法論を習得するため、社会における事業実践を平成31年度末までに学生諸君自らが主体となって行う。また、これら諸活動を担う上で、必要不可欠な日本語の文章力を養うための講座を導入部においている。

### ■到達目標

- ・履修生が自分自身で事業の企画・立案、制作に取り組むことで、社会と共にあるアート、社会と共にあるアーティストを体得する。本学研究科修了後、社会でアートに携わって生きていくための実践的なスキルを身につける。

### ■授業計画・方法

- |   |  |
|---|--|
| 1. オリエンテーション。履修生の目指す舞台                            | 16. 企画・制作⑨ 券売・集客                             |
| 2. 企画・制作のための日本語表現文章講座①(第1:「読む」)「書く」ために「読む」縮約課題と評価 | 17. 広報・宣伝① 概念整理と計画策定                         |
| 3. 企画・制作のための日本語表現文章講座②(第1:「読む」)要約課題と評価            | 18. 広報・宣伝② 事業理解と発信                           |
| 4. 企画・制作のための日本語表現文章講座③(第1:「読む」)見出し作成と「書く」作業       | 19. 広報・宣伝③ チラシ作成 「オール・イン・ワン媒体」の作成と活用         |
| 5. 企画・制作のための日本語表現文章講座④(第2:「書く」)基礎編 「伝わる文章」とは      | 20. 広報・宣伝④ マスコミ対策 プレスリリース・記者会見               |
| 6. 企画・制作のための日本語表現文章講座⑤(第2:「書く」)応用編 課題評価とリライト      | 21. 広報・宣伝⑤ ソーシャルメディア・顧客向け発信                  |
| 7. 企画・制作のための日本語表現文章講座⑥(第2:「書く」)応用編 課題評価とリライト      | 22. 舞台づくり① 舞台監督とセッティング                       |
| 8. 企画・制作① 何のための事業なのか～目的意識とミッションの確認                | 23. 舞台づくり② 音響・照明・録音など                        |
| 9. 企画・制作② 芸術とマーケティング                              | 24. 舞台づくり③ リハーサル                             |
| 10. 企画・制作③ 事業の開催場所・期日(曜日)と時間帯～周辺環境と事業の関係          | 25. 舞台づくり④ 舞台見学その1                           |
| 11. 企画・制作④ 予算作成(収入)～資金確保・券売計画                     | 26. 舞台づくり⑤ 舞台見学その2                           |
| 12. 企画・制作⑤ 予算作成(支出)～経費を考える                        | 27. 事業当日① ウラ方～手配表から考えるゲネプロから本番進行             |
| 13. 企画・制作⑥ 出演者交渉と契約(公演内容の確定)                      | 28. 事業当日② オモテ方～チケット対応・会場案内、公演環境の維持と安全管理      |
| 14. 企画・制作⑦ 企画書とプレゼンテーション                          | 29. 総括と反省① アンケート結果から学ぶ                       |
| 15. 企画・制作⑧ 本番に向けた、資料収集                            | 30. 総括と反省② 全プロセスの振り返り。定期試験は実施しない。課題をレポートで課す。 |

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・本演習の主体は、履修生自身である。このことを肝に銘じ、積極的に社会における事業実践の場を開拓し、事業を実現する気概を持つこと。
- ・年度内、原則として2020年1月末までに学外公演を行うこと。ただし、規模は問わない。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 (1) 平常点30% (2) 各種課題提出状況30% (3) レポート40%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究所(後期博士課程)の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 適宜、示す。

□テキスト 小林真理・片山泰輔監修『アーツ・マネジメント概論 三訂版』水曜社 2009年、外岡秀俊著『作文の技術』朝日出版社 2012年

□参考文献